



SmartPort マクロの設定

この章では、スイッチに SmartPort マクロを設定して適用する方法について説明します。

この章の内容は、次のとおりです。

- SmartPort マクロの概要 (p.16-2)
- SmartPort マクロの設定 (p.16-3)
- SmartPort マクロの表示 (p.16-15)



(注)

この章のスイッチ コマンドの構文および使用方法の詳細については、『*Catalyst 4500 Series Switch Cisco IOS Command Reference*』および次の URL の関連マニュアルを参照してください。

<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/software/ios122sr/cr/index.htm>

SmartPort マクロの概要

SmartPort マクロは、一般的な設定を保存したり、共有する作業を簡単に実行するための方法を提供します。SmartPort マクロを使用すると、ネットワーク内のスイッチの位置に基づいて機能および設定をイネーブルにしたり、ネットワーク中に多数の設定を導入したりできます。

各 SmartPort マクロは、ユーザが定義した CLI (コマンドラインインターフェイス) コマンドのセットです。SmartPort マクロ セットには新しい CLI コマンドは含まれません。各 SmartPort マクロは既存の CLI コマンドの集合です。

SmartPort マクロをインターフェイスに適用すると、マクロに含まれる CLI コマンドがインターフェイスに設定されますが、既存のインターフェイス設定は失われません。新しいコマンドはインターフェイスに追加されて、実行コンフィギュレーションファイルに保存されます。

シスコのデフォルト SmartPort マクロはスイッチ ソフトウェアに組み込まれています (表 16-1 を参照)。`show parser macro` ユーザ EXEC コマンドを使用して、マクロとマクロに含まれるコマンドを表示できます。

表 16-1 シスコのデフォルト SmartPort マクロ

マクロ名 ¹	説明
cisco-global	Rapid PVST+, ループガード, およびリンク ステート障害のダイナミック ポート エラー回復をイネーブルにするには、このグローバル コンフィギュレーション マクロを使用します。
cisco-desktop	PC などのデスクトップ デバイスをスイッチ ポートに接続する場合、ネットワーク セキュリティおよび信頼性を強化するには、このインターフェイス コンフィギュレーション マクロを使用します。
cisco-phone	Cisco IP Phone が接続されている PC などのデスクトップ デバイスをスイッチ ポートに接続する場合、このインターフェイス コンフィギュレーション マクロを使用します。このマクロは cisco-desktop マクロの拡張版で、同じセキュリティと信頼性を提供しますが、専用音声 VLAN (仮想 LAN) のサポートが追加されているため、遅延の影響を受けやすい音声トラフィックを適切に処理できます。
cisco-switch	GigaStack モジュールまたは GBIC (ギガビット インターフェイス コンバータ) を使用して、アクセス スイッチとディストリビューション スイッチ、またはアクセス スイッチ同士を接続する場合、このインターフェイス コンフィギュレーション マクロを使用します。
cisco-router	スイッチと WAN ルータを接続する場合、このインターフェイス コンフィギュレーション マクロを使用します。

1. シスコのデフォルト SmartPort マクロは、スイッチで稼働するソフトウェアバージョンによって異なります。

シスコでは、事前テスト済みの、シスコが推奨する Catalyst スイッチ用ベースライン コンフィギュレーション テンプレート集を提供しています。オンライン リファレンス ガイド テンプレートは、ポートの使用状況に基づいて SmartPort マクロを作成するのに使用できる CLI コマンドを提供します。シスコ推奨のネットワーク設計や設定を構築し、展開するために、コンフィギュレーション テンプレートを使用して SmartPort マクロを作成できます。シスコ推奨のコンフィギュレーション テンプレートの詳細については、次の SmartPort Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/smartports>

SmartPort マクロの設定

新しい SmartPort マクロを作成するか、既存のマクロをテンプレートとして使用すると、ご使用のアプリケーション専用の新しいマクロを作成できます。作成したマクロは、特定のインターフェイスまたはインターフェイス範囲に適用できます。

ここでは、次の内容について説明します。

- マクロに渡されるパラメータ (p.16-3)
- SmartPort マクロのデフォルト設定 (p.16-4)
- SmartPort マクロの設定時の注意事項 (p.16-6)
- SmartPort マクロの作成 (p.16-8)
- SmartPort マクロの適用 (p.16-9)

マクロに渡されるパラメータ

コマンドの一部にはすべてのインターフェイスに対する汎用性のないものがあります。たとえば、レイヤ 2 インターフェイスの VLAN ID およびレイヤ 3 インターフェイスの IP アドレスです。マクロにこのようなコマンドを定義すると、このマクロを別のインターフェイスに適用する前に、パラメータ (VLAN ID または IP アドレス) の値を変更する必要があります。あるいは、パラメータの各値を設定するために別々のマクロを作成する必要があります。

マクロのインフラストラクチャは、マクロを適用している間にパラメータを受け入れるよう拡張できます。パラメータはキーワードと値のペアとして、渡されます。

CLI で入力できるキーワード / 値ペア数は最大 3 つです。最初のパラメータはキーワードである必要があります。2 番目のパラメータは対応する値です。3 番目のパラメータは 2 番目のキーワード / 値ペアのキーワードです。次に、パラメータをコマンドマクロに渡す例を示します。

```
Switch(config)# macro name parameter-test
Enter macro commands one per line. End with the character '@'.
switchport mode access
switchport access vlan $VLANID
switchport port-security
switchport port-security maximum $MAXHOST
```

上記のマクロがパラメータなしでインターフェイスに適用された場合、無効なコマンドは失敗します。代わりに、適切なキーワード / 値ペアのパラメータを使用して、マクロを次のように適用する必要があります。

```
Switch(config-if)# macro apply parameter-test $VLANID 1 $MAXHOST 5
```

上記のコマンドを実行すると、\$VLANID を 1 に、\$MAXHOST を 5 に置き換えたあとでマクロが適用されます。マクロ内では任意のストリングをキーワードとして指定できることに注意してください。

マクロパラメータのヘルプ

マクロをインターフェイスまたはスイッチに適用する場合、マクロのキーワードを覚えておくことは困難です。マクロには、必須キーワードの定義を含めることができます。これらのキーワード値を入力せずにマクロを適用した場合、コマンドは無効とみなされ失敗します。

マクロで定義されたキーワードに関するヘルプを提供するようマクロ インフラストラクチャを拡張できます。マクロを作成するとき、ヘルプストリングを (コメントとして) 指定し、そのマクロの必須キーワードを一覧表示するように設定できます。

次に、キーワードに関するヘルプ ストリングを指定する例を示します。

```
Switch(config)# macro name test
switchport access vlan $VLANID
switchport port-security maximum $MAX
#macro keywords $VLANID $MAX
```

ヘルプ ストリングはマクロ内のどこにでも配置できます。次に、ヘルプ ストリングを指定する別の例を示します。

```
Switch(config)# macro name test
switchport access vlan $VLANID
#macro keywords $VLANID
switchport port-security maximum $MAX
#macro keywords $MAX
```

SmartPort マクロのデフォルト設定

ここでは、サポートされているマクロのデフォルト設定を示します。これらのマクロは表示および適用のみが可能です。ユーザはこれらを変更できません。

- [cisco-global](#) (p.16-4)
- [cisco-desktop](#) (p.16-5)
- [cisco-phone](#) (p.16-5)
- [cisco-router](#) (p.16-6)
- [cisco-switch](#) (p.16-6)

cisco-global

次に、cisco-global マクロの例を示します。

```
# Enable dynamic port error recovery for link state failures.
errdisable recovery cause link-flap
errdisable recovery interval 60

# VTP requires Transparent mode for future 802.1x Guest VLAN
# and current Best Practice
vtp domain [smartports]
vtp mode transparent

# Enable aggressive mode UDLD on all fiber uplinks
udld aggressive

# Enable Rapid PVST+ and Loopguard
spanning-tree mode rapid-pvst
spanning-tree loopguard default
spanning-tree extend system-id
```

cisco-desktop

次に、cisco-desktop マクロの例を示します。

```
# Basic interface - Enable data VLAN only
# Recommended value for access vlan (AVID) should not be 1
switchport access vlan $AVID
switchport mode access
# Enable port security limiting port to a single
# MAC address -- that of desktop
switchport port-security
# Ensure port-security age is greater than one minute
# and use inactivity timer
# "Port-security maximum 1" is the default and will not
# Show up in the config
switchport port-security violation restrict
switchport port-security aging time 2
switchport port-security aging type inactivity
# Configure port as an edge network port
spanning-tree portfast
spanning-tree bpduguard enable
```

cisco-phone

次に、cisco-phone マクロの例を示します。

```
# VoIP enabled interface - Enable data VLAN
# and voice VLAN (VVID)
# Recommended value for access vlan (AVID) should not be 1\
switchport access vlan $AVID
switchport mode access
# Update the Voice VLAN (VVID) value which should be
# different from data VLAN
# Recommended value for voice vlan (VVID) should not be 1
switchport voice vlan $VVID
# Enable port security limiting port to a 2 MAC
# addressess -- One for desktop and two for phone
switchport port-security
switchport port-security maximum 2
# Ensure port-security age is greater than one minute
# and use inactivity timer
switchport port-security violation restrict
switchport port-security aging time 2
switchport port-security aging type inactivity
# Enable auto-qos to extend trust to attached Cisco phone
auto qos voip cisco-phone
# Configure port as an edge network port
spanning-tree portfast
spanning-tree bpduguard enable@
```

cisco-router

次に、cisco-router マクロの例を示します。

```
# Access Uplink to Distribution
switchport trunk encapsulation dot1q
# Define unique Native VLAN on trunk ports
# Recommended value for native vlan (NVID) should not be 1
switchport trunk native vlan $NVID
# Update the allowed VLAN range (VRANGE) such that it
# includes data, voice and native VLANs
# switchport trunk allowed vlan $VRANGE
# Hardcode trunk and disable negotiation to
# speed up convergence
# Hardcode speed and duplex to router
switchport mode trunk
switchport nonegotiate
speed 100
duplex full
# Configure qos to trust this interface
auto qos voip trust
qos trust dscp
# Ensure fast access to the network when enabling the interface.
# Ensure that switch devices cannot become active on the interface.
spanning-tree portfast
spanning-tree bpduguard enable
```

cisco-switch

次に、cisco-switch マクロの例を示します。

```
# Access Uplink to Distribution
switchport trunk encapsulation dot1q
# Define unique Native VLAN on trunk ports
# Recommended value for native vlan (NVID) should not be 1
switchport trunk native vlan $NVID
# Update the allowed VLAN range (VRANGE) such that it
# includes data, voice and native VLANs
# switchport trunk allowed vlan $VRANGE
# Hardcode trunk and disable negotiation to
# speed up convergence
switchport mode trunk
switchport nonegotiate
# Configure qos to trust this interface
auto qos voip trust
# 802.1w defines the link as pt-pt for rapid convergence
spanning-tree link-type point-to-point
```

SmartPort マクロの設定時の注意事項

スイッチにマクロを設定する場合は、次の注意事項に従ってください。

- マクロを適用した際に、構文エラーまたは設定エラーが発生してコマンドが失敗した場合、マクロは残りのコマンドを引き続きインターフェイスに適用します。
- cisco-global** はグローバル コンフィギュレーション モードで適用する必要があります。他のインターフェイス レベルのマクロよりも先にこのマクロを適用することを推奨します。
- インターフェイス上でシステム定義マクロ (**cisco-desktop**、**cisco-phone**、**cisco-switch**、および **cisco-router**) を適用する場合は、特定のキーワードが必要です。
- cisco-phone** マクロを使用してポート セキュリティを適用する場合、最大のポート セキュリティは 2 となります (**switchport port-security maximum 2**)。
- キーワード / 値のペアは、システム定義マクロごとに最大 3 つまで指定できます。

- マクロを作成する場合、**exit** または **end** コマンドを使用しないでください。また、**interface interface-id** を使用してコマンドモードを変更しないでください。これらのコマンドを使用すると、**exit**、**end**、または **interface interface-id** のあとに続くコマンドが別のコマンドモードで実行されることがあります。
- マクロを作成する場合は、同じコンフィギュレーションモードの CLI コマンドを使用してください。
- 一意の値の割り当てが必要なマクロを作成する場合、**parameter value** キーワードを使用してインターフェイスに固有の値を指定します。キーワードの照合では、大文字と小文字が区別されます。キーワードが一致した場合はすべて、対応する値に置き換えられます。キーワードが完全一致する場合、これが長いストリングの一部であっても一致とみなされ、対応する値に置き換えられます。
- マクロ名は大文字と小文字が区別されます。たとえば、コマンド **macro name Sample-Macro** と **macro name sample-macro** は、別のマクロになります。
- マクロの中に、パラメータ値が必要なキーワードが含まれている場合があります。**macro global apply macro-name ?** グローバル コンフィギュレーション コマンドまたは **macro apply macro-name ?** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用すると、マクロに必要な値のリストを表示できます。キーワード値を入力せずにマクロを適用した場合、コマンドは無効になり適用されません。
- マクロがスイッチまたはスイッチ インターフェイスにグローバルに適用されても、そのインターフェイスの既存の設定はすべて保持されます。これは、設定を差分的に適用する場合に便利です。
- コマンドを追加または削除してマクロ定義を変更しても、元のマクロが適用されたインターフェイスには変更が反映されません。新しいコマンドまたは変更されたコマンドを適用するには、更新されたマクロをインターフェイスに再適用する必要があります。
- macro global trace macro-name** グローバル コンフィギュレーション コマンドまたは **macro trace macro-name** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、構文または設定エラーを調べるためのマクロを適用してデバッグできます。構文エラーまたは設定エラーによりコマンドが失敗した場合、マクロは続けて残りのコマンドを適用します。
- 一部の CLI コマンドは、特定のインターフェイス タイプ専用です。マクロが設定を受け入れないインターフェイスに適用された場合、マクロは構文チェックや設定チェックを通らず、スイッチがエラーメッセージを返します。
- インターフェイスの範囲にマクロを適用する方法は、単一インターフェイスにマクロを適用する場合と同じです。インターフェイス範囲を使用した場合、マクロは範囲内のインターフェイスに順に適用されます。1つのインターフェイス上でマクロ コマンドが失敗しても、他のインターフェイスにマクロが適用されます。
- マクロをスイッチまたはスイッチ インターフェイスに適用すると、マクロ名が自動的にスイッチまたはインターフェイスのマクロの説明に追加されます。**show parser macro description** ユーザ EXEC コマンドを使用して、適用されたコマンドとマクロ名を表示できます。
- ユーザ設定可能なマクロには、最大 3000 文字のコマンドとコメントを保持できるバッファがあります。新しく 1 行入力するたびに、2 文字使用されます。空の行はそのままカウントされます。

シスコのデフォルト SmartPort マクロはスイッチ ソフトウェアに組み込まれています (表 16-1 を参照)。**show parser macro** ユーザ EXEC コマンドを使用して、マクロとマクロに含まれるコマンドを表示できます。


シスコのデフォルト SmartPort マクロをインターフェイスに適用する場合には、次の注意事項に従ってください。

- スイッチ上のすべてのマクロを表示するには、**show parser macro** ユーザ EXEC コマンドを使用します。特定のマクロの内容を表示するには、**show parser macro macro-name** ユーザ EXEC コマンドを使用します。
- \$** で始まるキーワードには、一意のパラメータ値が必要です。**parameter value** キーワードを使用して、必要な値とともにシスコ デフォルト マクロに必要な値を追加します。

シスコ デフォルト マクロでは、必要なキーワードを識別するのに \$ 文字を使用します。\$ 文字の使用に制限はありません。

SmartPort マクロの作成

SmartPort マクロを作成するには、次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>macro name <i>macro-name</i></code>	<p>マクロ定義を作成し、マクロ名を入力します。マクロ定義の文字数は最大で 3000 文字です。</p> <p>マクロ コマンドを 1 行に 1 つずつ入力します。マクロを終了するには、@ 文字を入力します。マクロ内にコメントテキストを入力するには、行の先頭に # 文字を使用します。</p> <p>マクロ名は大文字と小文字が区別されます。たとえば、コマンド <code>macro name Sample-Macro</code> と <code>macro name sample-macro</code> は、別のマクロになります。</p> <p>マクロ内で <code>exit</code> または <code>end</code> コマンドを使用したり、<code>interface <i>interface-id</i></code> を使用してコマンドモードを変更したりしないことを推奨します。これらのコマンドを使用すると、<code>exit</code>、<code>end</code>、または <code>interface <i>interface-id</i></code> のあとに続くコマンドが別のコマンド モードで実行されることがあります。最良の結果を得るには、マクロ内のすべてのコマンドが同じコンフィギュレーション モードである必要があります。</p> <p> (注) <code>macro name</code> グローバル コンフィギュレーション コマンドの <code>no</code> 形式を使用しても、マクロ定義の削除が行われるだけです。このコマンドを実行しても、マクロがすでに適用されているインターフェイスの設定には影響しません。</p>
ステップ 3	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	<code>show parser macro name <i>macro-name</i></code>	マクロが作成されたことを確認します。

SmartPort マクロの適用

SmartPort マクロを適用するには、次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>macro global {apply trace} macro-name [parameter {value}] [parameter {value}] [parameter {value}]</code>	<p>マクロで定義された各コマンドをスイッチに適用するには、macro global apply macro-name を入力します。構文または設定エラーを調べるためのマクロを適用し、デバッグするには、macro global trace macro-name を指定します。</p> <p>(任意) スイッチに固有の一意的なパラメータ値を指定します。最大 3 つのキーワード / 値ペアを入力できます。パラメータ キーワードの照合では、大文字と小文字が区別されます。キーワードが一致した場合はすべて、対応する値に置き換えられます。</p> <p>マクロの中に、パラメータ値が必要なキーワードが含まれている場合があります。マクロに必要な値のリストを表示するには、macro global apply macro-name ? コマンドを使用します。キーワード値を入力せずにマクロを適用した場合、コマンドは無効になり適用されません。</p>
ステップ 3	<code>macro global description text</code>	(任意) スイッチに適用されるマクロの説明を入力します。
ステップ 4	<code>interface interface-id</code>	(任意) インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始して、マクロを適用するインターフェイスを指定します。
ステップ 5	<code>default interface interface-id</code>	(任意) 指定したインターフェイスからすべての設定を消去します。
ステップ 6	<code>macro {apply trace} macro-name [parameter {value}] [parameter {value}] [parameter {value}]</code>	<p>マクロで定義された各コマンドをインターフェイスに適用するには、macro apply macro-name を入力します。構文または設定エラーを調べるためマクロを適用し、デバッグするには、macro trace macro-name を指定します。</p> <p>(任意) インターフェイスに固有の一意的なパラメータ値を指定します。最大 3 つのキーワード / 値ペアを入力できます。パラメータ キーワードの照合では、大文字と小文字が区別されます。キーワードが一致した場合はすべて、対応する値に置き換えられます。</p> <p>マクロの中に、パラメータ値が必要なキーワードが含まれている場合があります。マクロに必要な値のリストを表示するには、macro apply macro-name ? コマンドを使用します。キーワード値を入力せずにマクロを適用した場合、コマンドは無効になり適用されません。</p> <p>次に、このコマンドを適用する例を示します。</p> <pre>Switch(config-if)# macro apply cisco-phone ? WORD Keyword to replace with a value e.g. \$AVID, \$VVID <cr></pre>
ステップ 7	<code>macro description text</code>	(任意) インターフェイスに適用されるマクロの説明を入力します。
ステップ 8	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。

	コマンド	目的
ステップ 9	<code>show parser macro description [interface interface-id]</code>	マクロがインターフェイスに適用されたことを確認します。
ステップ 10	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

スイッチ上のグローバル マクロによって適用された設定を削除するには、マクロ内の各コマンドの **no** バージョンを入力するしかありません。マクロによって特定のインターフェイスに適用された設定を削除するには、**default interface interface-id** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力します。

macro name グローバル コンフィギュレーション コマンドの **no** 形式を使用しても、マクロ定義の削除が行われるだけです。このコマンドを実行しても、マクロがすでに適用されているインターフェイスの設定には影響しません。マクロによって特定のインターフェイスに適用された設定を削除するには、**default interface interface-id** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力します。また、元のマクロ内の対応するすべてのコマンドの **no** 形式を含む、既存のマクロに対するアンチマクロを作成できます。そのあと、このアンチマクロをインターフェイスに適用します。

ここでは、サポートされている各マクロを適用して、内容を表示する例を示します。

- [cisco-global \(p.16-10\)](#)
- [cisco-desktop \(p.16-11\)](#)
- [cisco-phone \(p.16-12\)](#)
- [cisco-switch \(p.16-13\)](#)
- [cisco-router \(p.16-14\)](#)

cisco-global

次に、**cisco-global** というシステム定義マクロを使用する例を示します。

```
Switch(config)# macro global apply cisco-global
Changing VTP domain name from gsg-switch to [smartports]
Setting device to VTP TRANSPARENT mode.
Switch(config)# end
Switch# show parser macro name cisco-global
Macro name : cisco-global
Macro type : default global
# Enable dynamic port error recovery for link state failures.
errdisable recovery cause link-flap
errdisable recovery interval 60

# VTP requires Transparent mode for future 802.1x Guest VLAN
# and current Best Practice vtp domain [smartports] vtp mode transparent

# Enable aggressive mode UDLD on all fiber uplinks udld aggressive

# Enable Rapid PVST+ and Loopguard
spanning-tree mode rapid-pvst
spanning-tree loopguard default
spanning-tree extend system-id
```

cisco-desktop

次に、システム定義マクロ **cisco-desktop** を使用して、35 の値をインターフェイス FastEthernet 2/9 のアクセス VLAN に割り当てる例を示します。



(注)

このマクロでは、ポートのアクセス VLAN を指定する **\$AVID** キーワードが必要です。

```
Switch(config)# interface fastethernet2/9
Switch(config-if)# macro apply cisco-desktop $AVID 35
Switch(config-if)# end
Switch# show parser macro name cisco-desktop
Macro name : cisco-desktop
Macro type : customizable

# Basic interface - Enable data VLAN only
# Recommended value for access vlan (AVID) should not be 1
switchport access vlan $AVID [access_vlan_id]
switchport mode access
# Enable port security limiting port to a single
# MAC address -- that of desktop
switchport port-security
# Ensure port-security age is greater than one minute
# and use inactivity timer
# "Port-security maximum 1" is the default and will not
# Show up in the config
switchport port-security violation restrict
switchport port-security aging time 2
switchport port-security aging type inactivity
# Configure port as an edge network port
spanning-tree portfast
spanning-tree bpduguard enable
Switch# show parser macro description
Interface      Macro Description
-----
Fa2/9          cisco-desktop
-----
```

cisco-phone

次に、システム定義マクロ **cisco-phone** を使用して、インターフェイス FastEthernet 2/9 上のアクセス VLAN に 35 の値を、音声 VLAN に 56 の値を割り当てる例を示します。



(注) このマクロでは、ポートのアクセス VLAN を指定する **\$AVID**、および音声 VLAN を指定する **\$VVID** キーワードが必要です。

```
Switch(config)# interface fastethernet2/9
Switch(config-if)# macro apply cisco-phone
Switch(config-if)# macro description cisco-phone $AVID 35 $VVID 56
Switch(config-if)# end
Switch# show parser macro name cisco-phone
Macro name : cisco-phone
Macro type : customizable

# VoIP enabled interface - Enable data VLAN
# and voice VLAN (VVID)
# Recommended value for access vlan (AVID) should not be 1\
switchport access vlan $AVID [access_vlan_id]
switchport mode access
# Update the Voice VLAN (VVID) value which should be
# different from data VLAN
# Recommended value for voice vlan (VVID) should not be 1
switchport voice vlan $VVID [voice_vlan_id]
# Enable port security limiting port to a 2 MAC
# addressess -- One for desktop and one for phone
switchport port-security
switchport port-security maximum 2
# Ensure port-security age is greater than one minute
# and use inactivity timer
switchport port-security violation restrict
switchport port-security aging time 2
switchport port-security aging type inactivity
# Enable auto-qos to extend trust to attached Cisco phone
auto qos voip cisco-phone
# Configure port as an edge network port
spanning-tree portfast
spanning-tree bpduguard enable@

Switch# show parser macro description
Interface      Macro Description
-----
Fa2/9         cisco-phone
-----
```

cisco-switch

次に、システム定義マクロ **cisco-switch** を使用して、38 の値をインターフェイス FastEthernet 2/9 上のネイティブ VLAN に割り当てる例を示します。



(注) このマクロでは、ポートのネイティブ VLAN を指定する **\$NVID** キーワードが必要です。

```
Switch(config)# interface fastethernet2/9
Switch(config-if)# macro apply cisco-switch
Switch(config-if)# macro description cisco-switch $NVID 38
Switch(config-if)# end
Switch# show parser macro name cisco-switch
Macro name : cisco-switch
Macro type : customizable

# Access Uplink to Distribution
switchport trunk encapsulation dot1q
# Define unique Native VLAN on trunk ports
# Recommended value for native vlan (NVID) should not be 1
switchport trunk native vlan $NVID [native_vlan_id]
# Update the allowed VLAN range (VRANGE) such that it
# includes data, voice and native VLANs
# switchport trunk allowed vlan $VRANGE [vlan_range]
# Hardcode trunk and disable negotiation to
# speed up convergence
switchport mode trunk
switchport nonegotiate
# Configure qos to trust this interface
auto qos voip trust
# 802.1w defines the link as pt-pt for rapid convergence
spanning-tree link-type point-to-point

Switch# show parser macro description
Interface      Macro Description
-----
Fa2/9          cisco-switch
-----
```

cisco-router

次に、システム定義マクロ **cisco-router** を使用して、451 の値をインターフェイス FastEthernet 2/9 上のネイティブ VLAN に割り当てる例を示します。



(注) このマクロでは、ポートのネイティブ VLAN を指定する **\$NVID** キーワードが必要です。

```
Switch(config)# interface fastethernet2/9
Switch(config-if)# macro apply cisco-router
Switch(config-if)# macro description cisco-router $NVID 451
Switch(config-if)# end
Switch# show parser macro name cisco-router
Macro name : cisco-router
Macro type : customizable

# Access Uplink to Distribution
switchport trunk encapsulation dot1q
# Define unique Native VLAN on trunk ports
# Recommended value for native vlan (NVID) should not be 1
switchport trunk native vlan $NVID [native_vlan_id]
# Update the allowed VLAN range (VRANGE) such that it
# includes data, voice and native VLANs
# switchport trunk allowed vlan $VRANGE [vlan_range]
# Hardcode trunk and disable negotiation to
# speed up convergence
# Hardcode speed and duplex to router
switchport mode trunk
switchport nonegotiate
speed 100
duplex full
# Configure qos to trust this interface
auto qos voip trust
qos trust dscp
# Ensure fast access to the network when enabling the interface.
# Ensure that switch devices cannot become active on the interface.
spanning-tree portfast
spanning-tree bpduguard enable

Switch# show parser macro description
Interface      Macro Description
-----
Fa2/9         cisco-router
-----
```

SmartPort マクロの表示

SmartPort マクロを表示するには、表 16-2 に示す特権 EXEC コマンドの 1 つまたは複数のコマンドを使用します。

表 16-2 SmartPort マクロを表示するためのコマンド

コマンド	目的
<code>show parser macro</code>	設定されたすべてのマクロを表示します。
<code>show parser macro name <i>macro-name</i></code>	特定のマクロを表示します。
<code>show parser macro brief</code>	設定されたマクロの名前を表示します。
<code>show parser macro description [interface <i>interface-id</i>]</code>	すべてのインターフェイスまたは指定されたインターフェイスのマクロの説明を表示します。

